

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K01932

研究課題名（和文）会計基準の選択・適用における企業の動機とその影響：日本企業のIFRS適用の場合

研究課題名（英文）The Companies' Incentives and Consequences on the Choice and Application of IFRS in Japan

研究代表者

仙場 胡丹（Semba, Hu Dan）

名古屋大学・経済学研究科・准教授

研究者番号：10386667

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：国際的視点を踏まえての会計学研究である。具体的に用いた研究手法は、定性的な研究手法のみならず、定量的な研究手法にも重みを置きながらの研究となる。研究成果は多岐にわたり、査読英文論文2つ（うちひとつはSSCI雑誌）、査読中国語論文2つ、国際学会発表1つ（その中で受賞している）、研究会発表2回、学会発表1回、査読日本語論文1つの研究成果が数えられる。特にSSCI雑誌の論文については、企業の動機に影響を受けている企業開示の行動にメスをいれるものであり、革新性があると評価できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

企業の動機が企業の様々な行動に影響を与え、その中において、会計手法の選択はそうであるが、企業のディスクロージャーの仕方にも、企業の動機が深く関わることになっている。政策が企業の任意に任せるのであれば、いわゆる「市場の手」という見えない拘束力の中で企業が動くのであるが、強制的であれば、企業がどの部分が強制的なのかを確認し、それに応じる行動を行う。本研究の研究成果は、このような「企業の動機 対 政策の在り方」に対して示唆を与えようとするものである。

研究成果の概要（英文）：The accounting research is based on an international perspective. The specific research methods used are not only qualitative research methods, but also quantitative research methods, with emphasis on quantitative research methods. The research outputs are diverse and include two peer-reviewed English language papers (one of which is in an SSCI journal), two peer-reviewed Chinese language papers, one international conference presentation (received an award), two research group presentations, one conference presentation and one peer-reviewed Japanese language paper. In particular, the paper in the SSCI journal can be evaluated as innovative because it takes a scalpel to the behavior of corporate disclosure, which is influenced by corporate motives.

研究分野：会計学

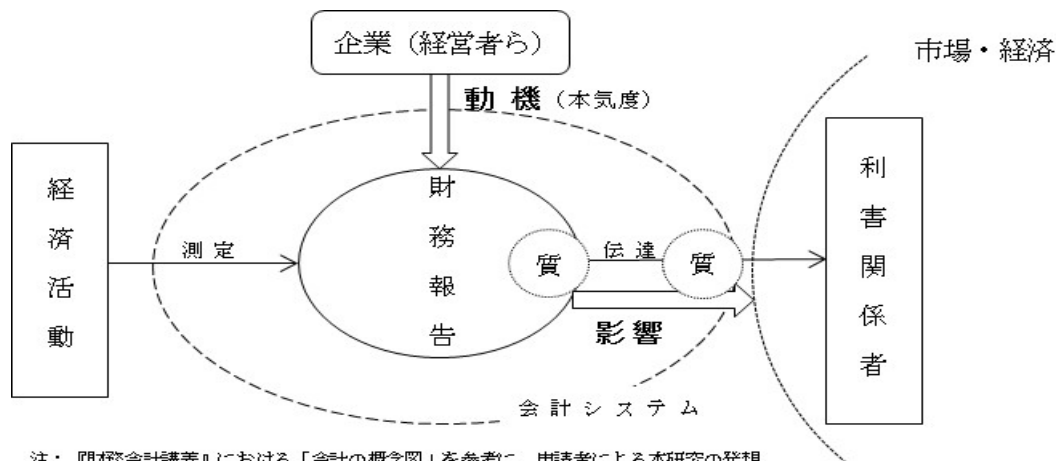
キーワード：国際会計 実証 企業の動機 財務情報の質

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

会計学者にとって、(たとえば、『財務会計講義』(2017年版)における「会計」の定義)「特定の経済主体の経済活動を貨幣額などで測定し、結果を報告書にまとめて利害関係者に伝達するシステム」に関わる会計システムそのもの(アウトプット)の質や市場への影響は重要な学問的分析領域である。その中において、財務諸表の作成主体である企業(経営者ら)における当該アウトプットの作成プロセスにおける動機および動機に基づく行動が、「どのように」、「どの程度」財務報告そのものの質や市場に影響を及ぼすかについては、根幹的な学術的「問い」になると考えられる(下図)。



2. 研究の目的

本研究は、(財務報告を市場に対し行う)企業の経営者らによる会計基準の選択・適用の際における動機と、その影響(財務報告の質への影響および市場に対する経済的影響)について、理論的・実証的に分析を行おうとするものである。

3. 研究の方法

「企業の動機」が「会計基準の選択・適用」に影響を及ぼし、その結果、市場・経済に影響するという根幹に関わる重要な命題があるが、まだ着手できた研究が少ないことから、日本市場をベースとする理論的・実証的研究の展開は、必要であり、本研究は、理論的・実証的研究方法をとることとした。

4. 研究成果

その研究成果として、下記の【5. 主な発表論文等】欄から確認できるが、学会発表7回(うち、国際学会3回)8編の論文の公刊が挙げられる。特に、国際学会で「Best Paper Award」を受賞し、また関係論文がSSCI(Social Sciences Citation Index)雑誌に掲載されている。

また、具体的に、本研究の目的の下、国際共同研究をも行っている。現時点で、その成果として、下記の論文の2つの中国語による論文がある。特に、「会計事務所の規模と監査の質に関する日中比較研究」は、本研究の研究成果のうち、日本と中国の比較研究を行ったものとなる。また、もうひとつの国際共同研究も行っているが、現時点で研究成果としてワーキングペーパーが存在し、現在、投稿中である。

なお、本研究の研究成果は、一部分が科研費(番号：16KK0078および22K01808;同じ単一研究代表者)の受給年度と重なる年があることから、研究成果が両科研費による支援を受けていることを明記しておく。論文に関わる謝辞にも明記している。

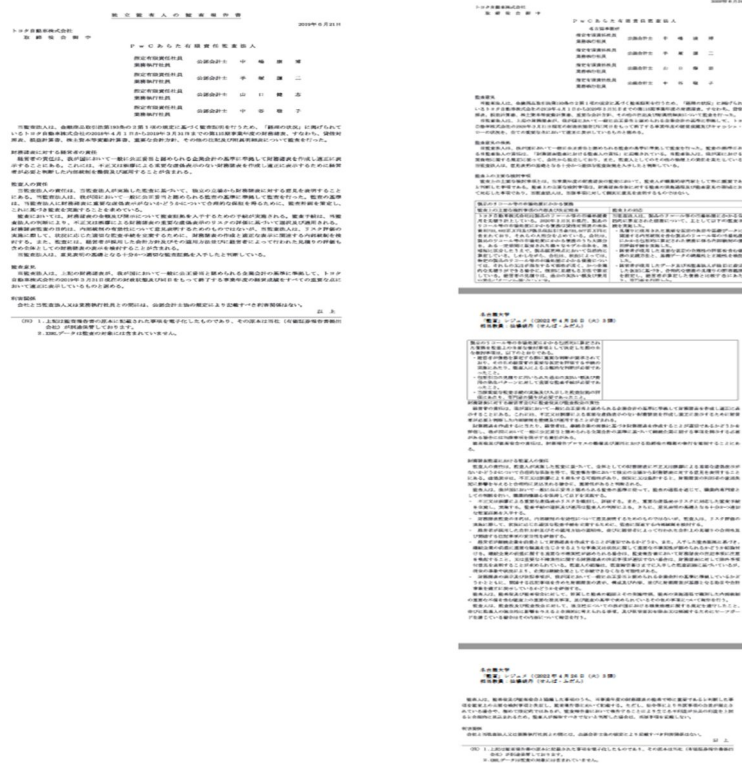
ここでは、特に下記において2つの点を重点的に説明することで、対外的に研究成果を提示する。具体的なものは、ぜひ【5. 主な発表論文等】欄をご参照ください。

(1) 国際的研究の展開

本研究に関連して、国際共同研究をも行っている。【5. 主な発表論文等】欄の[雑誌論文]

欄には、2つの中国語による査読論文が公開している。また、現在、投稿中の国際共同研究成果物もある。

さらに、[学会発表]欄からも確認できるように、本研究の一部成果が招待講演という形で、「Disclosure and the Influence of It」という題目の下、フランスのストラスブール大学で研究発表を行った。本研究における企業の動機がどのように企業開示(Disclosure)につながったかについての研究報告であった。下記の図からも確認できるように、日本企業の開示では、左が前;右が後のように、規制により、開示のボリュームが異なることがある。その場合の規制が企業の開示における動機付けに影響を与える。



出所：開示されている有価証券報告書

(2) 本研究における会計規制と企業行動(企業の動機を踏まえたもの)に関する研究成果

ここでは、本科研の支援をももらっている「Mandatory vs. Voluntary Disclosure on Management Forecast in China」研究成果の内容について、紹介したい。出所：名古屋大学研究成果発信サイト

<https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2021/03/-2021219asia-pacific-journal.html>

The screenshot shows a research information page from Nagoya University. The page features a green header with the university's logo and name. Below the header, there is a main title in Japanese: 「規制当局にとって、経営者(企業)に対して「強制的」に経営予測情報を開示させる方が良いのか、それとも経営者による「自発的」経営予測情報の開示に任せる方が良いのか?」. Below the title, there are three buttons: 「経営者予想」, 「経営予測情報の自発的開示」, and 「経営予測情報の強制的開示」. The page also includes a navigation menu with '社会科学' and '2021/03/03'.

国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学大学院経済学研究科の仙場 胡丹(せんば ぶだん)准教授、張 曉白(元)博士後期課程学生、徐 泓博士後期課程学生の研究グループは、規制当局にとって経営者に経営予測情報をルールなどに基づき「強制的に」開示させる方が良いのか、経営者による「自発的な」経営予測情報の開示に任せる方が良いのかという重要な政策的・実践的テーマに取り組み、当該テーマへの検証が可能である中国市場における経営予測情報などの分析を通じて、自発的開示の方が、①経営者予想の予測正確性、そして②モデルに基づく将来情報への予測力という2つの側面において、強制的開示よりも優れていることを発見しました。

本研究では、「強制的開示情報」と「自発的開示情報」との情報の質について、差があることが示され、開示に関わる規制を策定する規制当局、開示情報を利用する投資家など、幅広い財務諸表利用者にとり学術的研究や政策的議論において、基礎的な実証結果を提供する役割を担うものとして期待されます。

この研究成果は、2021年2月19日に「Asia-Pacific Journal of Accounting & Economics」第28巻第1号において公開されました。なお、同誌オンライン版に既に掲載されています。

この研究は、科研費・基礎研究(C)および国際共同研究加速基金(18K01932;16KK0078、研究代表者:仙場胡丹)の助成を受けたものです。なお、当該論文における英文校閲費用については、名古屋大学男女共同参画センターを通じて文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の助成を受けています。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 仙場胡丹・徐寧・東田明	4. 巻 35
2. 論文標題 カーボンニュートラル宣言と温室効果ガス多排出企業の裁量行動	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会関連会計研究	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 東田明・福尾勇人・仙場胡丹	4. 巻 35
2. 論文標題 国立大学の環境報告書における第三者レビューの実態と変遷 法規制の影響とステイクホルダーの包含の視点から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会関連会計研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Fang, Fang; Semba, Hu Dan; Li, Jingchan	4. 巻 68
2. 論文標題 Management Background Characteristics and Stock Price Crash Risk	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済科学	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Zhang, Xiaobai; Semba, Hu Dan; Xu, Hong	4. 巻 28
2. 論文標題 Mandatory vs. Voluntary Disclosure on Management Forecast in China	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asia - Pacific Journal of Accounting & Economics	6. 最初と最後の頁 133-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/16081625.2020.1845003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hu Dan Semba; Ryo Kato	4. 巻 1
2. 論文標題 Does Big N Matter for Audit Quality? Evidence from Japan.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Asian Review of Accounting	6. 最初と最後の頁 2-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/ARA-01-2015-0008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 干勝道、程Ran、仙場胡丹	4. 巻 1
2. 論文標題 財務寛裕：概念創立と研究課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 会計之友	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 仙場胡丹、干勝道	4. 巻 1
2. 論文標題 会計士事務所規模と審計質量関係之中日比較	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 财会月刊	6. 最初と最後の頁 93-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19641/j.cnki.42-1290/f.2020.01.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Semba, Hu dan; Kato, Ryo	4. 巻 27
2. 論文標題 Does Big N Matter for Audit Quality? Evidence from Japan.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Asian Review of Accounting	6. 最初と最後の頁 2-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/ARA-01-2015-0008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Semba, Hu Dan
2. 発表標題 Disclosure and the Influence of It
3. 学会等名 LaRGE Research Center Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 仙場胡丹
2. 発表標題 アンテナを高く設定し、社会諸課題に取り組むための研究を行う
3. 学会等名 神戸大学経済経営学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福尾勇人・仙場胡丹・東田明
2. 発表標題 国立大学の環境報告書における第3者レビューの実態と変遷
3. 学会等名 日本社会関連会計学会第34回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Semba, Hu Dan
2. 発表標題 A Study of Management Forecast Information
3. 学会等名 The 11 th International Conference of THE JAPANESE ACCOUNTING REVIEW (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Xu, Hong
2. 発表標題 Mandatory vs. Voluntary Disclosure on Management Forecast in China
3. 学会等名 The 8th Conference of the World Accounting Frontiers Series (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仙場胡丹
2. 発表標題 監査の実証研究 - 国際的視野を入れて -
3. 学会等名 名古屋大学 課題設定型ワークショップ「財務会計・管理会計」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仙場 胡丹
2. 発表標題 監査の実証研究 - 国際的視野を入れて -
3. 学会等名 名古屋大学 課題設定型ワークショップ「財務会計・管理会計」
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 古賀智敏編著、仙場胡丹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 千倉書房	5. 総ページ数 478
3. 書名 会計研究の系譜と発展	

1. 著者名 古賀智敏編著、仙場胡丹他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 千倉書房	5. 総ページ数 478
3. 書名 会計研究の系譜と発展	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
	中国	南京財経大学	北京師範大学	
中国	四川大学			